

研究教育業績（過去5年間）

I. 研究業績

1. 主な発表論文

[原著論文]

国際誌

査読あり

- 1) Tabuchi H., Nojima R., Kurita T. and Tokumura T., Development of a Validated HPLC Method for Candesartan Cilexetil to Evaluate the Process of Grinding Tablets on Dispensing in Japan. *Sch. Acad. J. Pharm.*, **11(2)**, 37-40 (2022).
- 2) Takizawa Y., Arakawa M., Uno M., Kurita T. and Nakajima T. The influence of 4-methylimidazole on gastrointestinal epithelial cells. *Journal of Excipients and Food Chemicals*, **12(1)**, 4-15 (2021).
- 3) Tokumura T., Yasumoto A. and Kurita T., A validated HPLC pranlukast assay method for cleaning validation on an automatic packaging machine. *Sch. Acad. J. Pharm.*, **8(1)**, 11-14 (2019).
- 4) Tokumura T., Yasumoto A. and Kurita T., A validated HPLC nicotinamide assay method for cleaning validation on an automatic packaging machine. *Sch. Acad. J. Pharm.*, **7(12)**, 470-473 (2018).
- 5) Tokumura T., Yasumoto A. and Kurita T., A validated HPLC ketotifen fumarate assay method for cleaning validation on an automatic packaging machine. *Sch. Acad. J. Pharm.*, **7(11)**, 460-463 (2018).
- 6) Tokumura T., Yasumoto A. and Kurita T., Validated HPLC acetaminophen assay method for cleaning validation on an automatic packaging machine. *Sch. Acad. J. Pharm.*, **7(10)**, 438-441 (2018).
- 7) Tokumura T., Nishio K. and Kurita T., Validated HPLC theophylline assay method for cleaning validation on an automatic packaging machine. *Sch. Acad. J. Pharm.*, **7(9)**, 414-416 (2018).
- 8) Takizawa Y., Koda D., Takahashi M, Komura M., Kizawa M., Kurita T., Nakajima T., Influence of non-alcoholic beverage on gastrointestinal epithelial cells. *Sch. Acad. J. Pharm.*, **7(5)**, 203-207 (2018).
- 9) Tokumura T., Yoshida N., Mori-Yasumoto K., Shirota O. and Kurita T., Degradation rates and products of fluticasone propionate in alkaline solutions. *J. of Pharm. Anal.*, **7(5)**, 297-302 (2017).

邦文誌

査読あり

- 1) 中島孝則, 伊藤創馬, 菊池蘭, 大戸智絵, 太田美鈴, 日高慎二, 瀧沢裕輔, 栗田拓朗, 一包化調剤

したスボレキサント錠の保存方法に関する検討, *日本病院薬剤師会雑誌*, **57(8)**, 875-880 (2021).

- 2) 北田里華, 川上充希, 山本秀紀, 山本宏, 栗田拓朗, 徳村忠一, 新生児特定集中治療室での使用を目的としたシルデナフィル錠に対する粉碎調剤の最適化, *薬剂学*, **80(6)**, 307-314 (2020).
- 3) 松村久男, 飯田美奈子, 小笠原健人, 吉田拓海, 赤池聡一郎, 栗田拓朗, 藤掛佳男, 中島孝則, 鈴木勝宏, 経管投与におけるボルテックス攪拌懸濁法の有用性, *薬局薬学*, **12(2)**, 122-128 (2020).
- 4) 松村久男, 飯田美奈子, 鈴木友也, 初谷健太郎, 小笠原健人, 吉田拓海, 栗田拓朗, 藤掛佳男, 中島孝則, 松田佳和, 自転公転懸濁法による内用固形製剤の経管投与に関する研究, *薬局薬学*, **12(1)**, 39-45 (2020).
- 5) 山本秀紀, 川上充希, 北田里華, 横井里沙, 豊福泰代, 栗田拓朗, 仙波靖士, 山本宏, 徳村忠一, シルデナフィル錠から調製した新生児特定集中治療室用分包品のシルデナフィル含有量に及ぼす粉碎調剤方法の影響, *徳島文理大学研究紀要*, **98**, 1-8 (2019).
- 6) 川上充希, 北田里華, 栗田拓朗, 徳村忠一, 小児用錠剤粉碎調剤時の乳鉢・乳棒への付着を防止する方法, *YAKUGAKU ZASSHI*, **137(8)**, 1017-1025 (2017).

[総説]

[著書]

「製剤化のサイエンス」(改訂第11版), 共著, ネオメディカル (2022).

「製剤化のサイエンス」(改訂第10版), 共著, ネオメディカル (2020).

「製剤化のサイエンス」(改訂第9版), 共著, ネオメディカル (2019).

[その他]

2. 主な学会発表

[国際学会]

[国内学会]

- 1) 中島孝則, 伊藤創馬, 菊池蘭, 大戸智絵, 太田美鈴, 日高慎二, 瀧沢裕輔, 栗田拓朗, 一包化調剤したスボレキサント錠の保存方法に関する検討, 日本薬学会第142年会, 3月, 名古屋 (2022).
- 2) 瀧沢裕輔, 國井稔也, 宇野雅也, 古屋貴人, 栗田拓朗, 増田純一, 中島孝則, 日本において未承認の後発品 HIV 治療薬の溶出性と膜透過性の評価, 第35回日本エイズ学会学術総会, 11月, 東京 (2021).
- 3) 瀧沢裕輔, 高橋優斗, 宮部耕佑, 宮田美生, 栗田拓朗, 中島孝則, ミコフェノール酸モフェチルの溶出性に対するプレドニゾロンおよびタクロリムスの影響, 日本薬剤学会第36年会, 5月, 徳島 (2021).
- 4) 中島孝則, 伊藤創馬, 菊池蘭, 大戸智絵, 太田美鈴, 日高慎二, 瀧沢裕輔, 栗田拓朗, 一包化調剤したベルソムラ錠の吸湿性と保存方法に関する検討, 日本薬剤学会第36年会, 5月, 徳島 (2021).

- 5) 大戸智絵, 栗田拓朗, 瀧沢裕輔, 中島孝則, 一包化したアトルバスタチン錠ならびにアトーゼット配合錠の光安定性について, 日本薬学会 第 141 年会, 3 月, 広島 (2021).
- 6) 瀧沢裕輔, 高橋優斗, 宮部耕佑, 宮田美生, 栗田拓朗, 中島孝則, ミコフェノール酸モフェチルの溶出性に対する併用薬の影響, 日本薬学会 第 141 年会, 3 月, 広島 (2021).
- 7) 栗田拓朗, 大橋拓斗, 竹内勇樹, 目時楓太, 外山雅子, 平岡優希, 瀧沢裕輔, 中島孝則, 添加剤から構成されるイオン液体に対するクルクミン溶解性の評価 (第 2 報), 日本薬学会 第 140 年会, 3 月, 京都 (2020).
- 8) 菊池蘭, 伊藤創馬, 太田美鈴, 日高慎二, 瀧沢裕輔, 栗田拓朗, 中島孝則, 一包化したベルソムラ®錠の保存方法に関する検討, 日本薬学会 第 140 年会, 3 月, 京都 (2020).
- 9) 中島孝則, 菊池蘭, 伊藤創馬, 太田美鈴, 日高慎二, 瀧沢裕輔, 栗田拓朗, 分包したベルソムラ®錠の保存安定性について, 第 29 回日本医療薬学会年会, 11 月, 福岡市 (2019).
- 10) 菊池蘭, 伊藤創馬, 太田美鈴, 日高慎二, 瀧沢裕輔, 栗田拓朗, 中島孝則, ベルソムラ®錠の一包化に向けた保存条件の検討, 埼玉医療薬学懇話会第 39 回学術研究講演会, 7 月, さいたま市 (2019).
- 11) 小笠原健人, 松村久男, 飯田美奈子, 吉田拓海, 栗田拓朗, 清水裕, 織本桂, 矢吹直寛, 鈴木勝宏, 藤掛佳男, 中島孝則, 松田佳和, 自転公転懸濁法による内用固形製剤の崩壊懸濁性および経管栄養チューブ通過性と薬剤安定性に関する研究, 埼玉医療薬学懇話会第 39 回学術研究講演会, 7 月, さいたま市 (2019).
- 12) 吉田拓海, 松村久男, 飯田美奈子, 小笠原健人, 栗田拓朗, 清水裕, 織本桂, 矢吹直寛, 鈴木勝宏, 藤掛佳男, 中島孝則, 松田佳和, 高速攪拌懸濁法による内用固形製剤の崩壊懸濁性および経管栄養チューブ通過性と薬剤安定性に関する研究, 埼玉医療薬学懇話会第 39 回学術研究講演会, 7 月, さいたま市 (2019).
- 13) 石山萌子, 坂森あすか, 小嶋ひかる, 草野滉平, 栗田拓朗, 瀧沢裕輔, 中島孝則, 添加剤から構成されるイオン液体に対するクルクミン溶解性の評価, 日本薬学会 第 139 年会, 3 月, 千葉 (2019).
- 14) 伊藤創馬, 大戸智絵, 菊池蘭, 太田美鈴, 日高慎二, 瀧沢裕輔, 栗田拓朗, 中島孝則, ベルソムラ®錠の一包化に向けた保存条件の検討, 日本薬学会 第 139 年会, 3 月, 千葉 (2019).
- 15) 瀧沢裕輔, 高橋優斗, 宮部耕佑, 栗田拓朗, 中島孝則, 経口投与製剤の溶出性および膜透過性に対する併用薬の影響～ミコフェノール酸モフェチルを用いた検討～, 日本薬学会 第 139 年会, 千葉 (2019).
- 16) 村上亜希穂, 栗田拓朗, 中妻章, 池田博昭, 二宮昌樹, 徳村忠一, 調剤に使用した器具と機器表面に残留した乳糖量の蒸発光散乱検出器を用いた HPLC による測定, 日本薬学会 第 139 年会, 千葉 (2019).
- 17) 橋本実菜, 齊藤大悟, 朝優佑, 間野綾菜, 澤口能一, 瀧沢裕輔, 栗田拓朗, 佐竹清, 岩田政則, 中島孝則, アルギン酸によるウリナスタチン膺坐剤徐放化の検討, 日本薬学会 第 138 年会, 3 月, 金沢 (2018).
- 18) 谷岡達樹, 栗田拓朗, 中妻章, 横田ひとみ, 二宮昌樹, 徳村忠一, 自動分割分包機における吸引清掃の効果, 第 56 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会, 10 月, 徳島 (2017).

- 19) 山西慶二郎, 栗田拓朗, 森田豊, 徳村忠一, 溶出試験の観点から見る簡易懸濁施行時の溶出性, 第 56 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会, 10 月, 徳島 (2017).
- 20) 松山盛士, 栗田拓朗, 徳村忠一, 湿式粉碎での γ -シクロデキストリンのクルクミンへの効果, 第 56 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会, 10 月, 徳島 (2017).
- 21) 井宮博昭, 栗田拓朗, 徳村忠一, 円盤型自動分割分包機から肺に到達する薬物粒子は飛散するの
か? : アセトアミノフェンでの検証, 第 56 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国
四国支部学術大会, 10 月, 徳島 (2017).
- 22) 堤祐二, 栗田拓朗, 中妻章, 横田ひとみ, 二宮昌樹, 徳村忠一, 自動分割分包機の洗浄剤の効果に
対する洗浄剤中薬物量からの考察と洗浄剤残留量の測定, 第 56 回日本薬学会・日本薬剤師会・日
本病院薬剤師会中国四国支部学術大会, 10 月, 徳島 (2017).

3. その他特筆すべき研究業績

II. 教育業績

1. 担当授業科目

2021 年度

- 1) 生活の化学 (医ビ科 1 年)
- 2) 医療ビジネス薬科学概論 (医ビ科 1 年)
- 3) 製剤材料の物性 (薬学科 2 年)
- 4) 薬学総合演習 1 (薬学科 4 年) 2 コマ
- 5) 薬剤特論 (薬学科 6 年) 4 コマ
- 6) 卒業研究 (薬学科 6 年)
- 7) 卒業研究 (医ビ科 4 年)

2020 年度

- 8) 製剤材料の物性 (薬学科 2 年)
- 9) 薬物動態・製剤実習 (薬学科 4 年)
- 10) 薬学原書購読 2 (薬学科 4 年)
- 11) 薬学総合演習 1 (薬学科 4 年) 3 コマ
- 12) 薬剤特論 (薬学科 6 年) 3 コマ
- 13) 薬学総合演習 2 (薬学科 6 年) 2 コマ
- 14) 医療における生と死に関する問題 (薬学科 1 年) 2 コマ
- 15) 卒業研究

2019 年度

- 1) 製剤材料の物性 (薬学科 2 年)
- 2) 薬物動態・製剤実習 (薬学科 4 年)
- 3) 薬学原書購読 2 (薬学科 4 年)

- 4) 薬学総合演習 1 (薬学科 4 年) 3 コマ
- 5) 薬学総合演習 2 (薬学科 6 年) 5 コマ
- 6) 医療における生と死に関する問題 (薬学科 1 年) 8 コマ
- 7) 卒業研究

2018 年度

- 1) 製剤材料の物性 (薬学科 2 年)
- 2) 薬物動態・製剤実習 (薬学科 4 年)
- 3) 薬学原書購読 2 (薬学科 4 年)
- 4) 薬学総合演習 1 (薬学科 4 年) 3 コマ
- 5) 薬学総合演習 2 (薬学科 6 年) 5 コマ
- 6) 卒業研究

2017 年度

- 1) 製剤材料の物性 (薬学科 2 年)
- 2) 薬剤系実習 (薬学科 4 年)
- 3) 薬学総合演習 1 (薬学科 4 年) 4 コマ
- 4) 薬学総合演習 2 (薬学科 6 年) 4 コマ
- 5) 卒業研究

2. その他特筆すべき教育業績